



JA葬祭 通信

地域とともに、ゆたかな暮らしのお手伝い

2024.2月発行 第25号

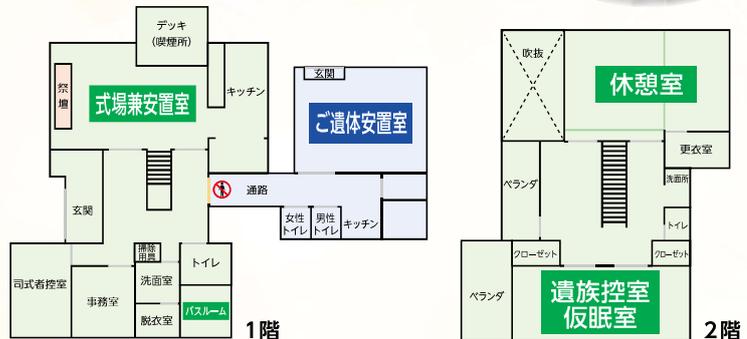
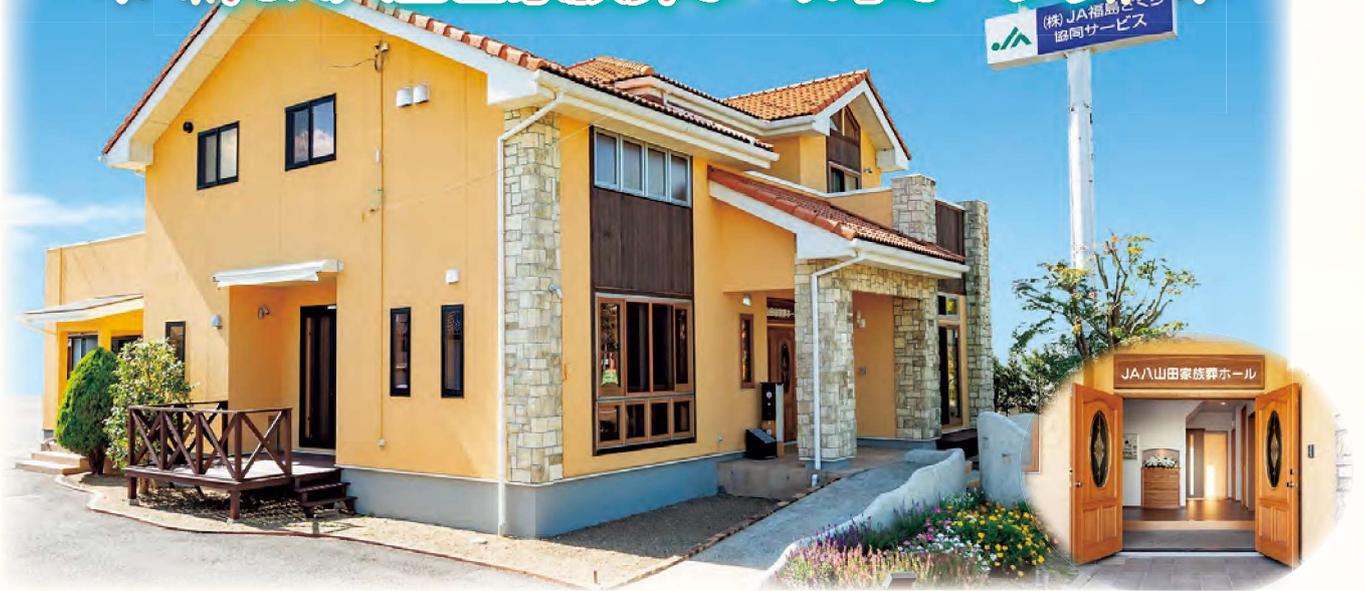
発行 / 福島県JA葬祭事業連絡協議会
 編集 / ㈱JAライフクリエイティブ 福島 生活事業部 催事課
 〒963-0725 郡山市田村町金屋字下夕川原76番1
 TEL024 (942) 5078
 ホームページ <http://www.jalcf.jp/services/kurashi/>
 お客様相談窓口
 (ご意見・ご質問) ☎024 (942) 5078

Contents

- 「JA八山田家族葬ホール」オープン
- 令和5年度JA葬祭事業の取り組み
- 令和5年度JA葬祭事前相談コンテスト開催について
- 終活について
- 葬儀豆知識「香典の意味」

㈱JA福島さくら協同サービス 郡山支社

「JA八山田家族葬ホール」オープン



㈱JA福島さくら協同サービスが新たに葬祭会館を取得し「JA八山田家族葬ホール」をオープンいたしました。家族葬向けの専用ホールとなっており、故人様との最後を自宅にいるような感覚でお別れができる特別な空間となっております。

JA葬祭は、今後ともより良いサービスの提供に努め、真心込めたご葬儀のお手伝いをさせていただきます。

令和5年度

JA葬祭事業の取り組み

JA葬祭としてのサービス向上への取り組み

JA葬祭はご利用の皆様からのご要望に応えるために、各JA・会社の職員・社員の葬儀知識及び、サービス向上のため、研修会を開催しております。今年度は宮城県の女性スタッフとの交流会を開催しました。また、葬祭業務専門講習会（管理者研修会・グリーンサポート・説明力向上）を実施し、皆様が安心して葬儀を執り行うことができるよう取り組んでおります。

宮城県JA葬祭女性スタッフ交流会

宮城県女性スタッフとの交流会を開催。宮城県松島町にて地域の違いや特性などの意見交換をし、互いに良い刺激を受けていました。



JA葬祭管理者研修会

これからのJA葬祭を考えた新たなサービスを考察し、新規商品開発を課題に取り組みました。お客様に満足してもらうための取り組みを検討しました。



JA葬祭 グリーンサポート研修会

お客様に安心や信頼を提供できるJA葬祭であるために、寄り添う気持ちをもって業務にあたることを再確認しました。



JA葬祭説明力向上研修会

担当者は、お客様にどれだけ分かりやすく説明できるかが、とても重要です。今回の研修では説明のテクニックやコツを学びました。



令和5年度 福島県JA葬祭事前相談コンテスト開催について

令和5年度新たに事前相談コンテストを開催。第1回目となるコンテストでは、各JA・会社の代表者5名が参加をし、相談者への心配りを意識した聴く力、コミュニケーションスキルに加え、葬儀事前相談および終活に関する知識を審査しました。



最優秀賞は(株)JAサービス夢みなみ 後藤徹さん、優秀賞は(株)JAふくしま未来サービス 氏家正博さん、優良賞はJA夢みなみ 曲山正隆さんとなりました。

終活について

昨今、テレビや雑誌、Webサイトなどさまざまなメディアで取り上げられております「終活」。

皆さんは「終活」とはどのようなものだと思いますか。

終活は遺された家族に負担をかけないための取り組みであることは広く知られています。しかし、具体的に何をすればよいのか、どのような効果が得られるのか分からないという人も多いでしょう。

実際に終活のイベントに参加し、少しでも「終活」というもののイメージを明確なものになればと、糸口を探しに参加される方も少なくありません。

「終活」と聞くと言葉のイメージからしてネガティブな印象を持たれる方もいるでしょうが、ただ自分が終焉を迎えるまでの準備をすることやそれまでに自分らしく生きるという、終わりに目を向けることではなく、「いま」をより良く生きるための準備

や活動を「終活」と言います。前向きな活動として広がっており、自分の残りの人生を充実させる手段としても有効な方法といえます。これからも生きていく人生の中で不安や心配ごとは葬儀に関することだけではありません。供養・遺言・健康・保険、様々な問題が発生していきます。だからこそ、終活を始めるべきなのです。

また、終活の準備を始める方は、すべて自分で準備しておこうという方もいらっしゃると思いますが、是非ご家族で取り組んでいただきたいと思います。終活やエンディングノートの作成はご家族や大切な人へ想いを伝えるものです。

JA葬祭ではオリジナルの安心準備ノート(エンディングノート)を作成し、事前相談会やイベント時に配布しております。興味を持たれた方、また書き方についてお近くのJA葬祭までお問い合わせください。



葬儀豆知識

香典の意味

「香典」はかつては「香奠」と書きました。「香を供える」という意味があり、そこから転じて、香を買う代金である「香典」「香資」「香料」となりました。香典の由来は、仏教的には香が「仏の食べ物」という意味から転じて「食料」になり、米などの食料を持ち寄ることが始まりでしたが、明治期に金銭の香典が一般的となりました。香典には故人を偲ぶ想い、故人とのお別れの場を設けてくださったご遺族へのお礼、葬儀・法事にかかる費用を助け合う意味があります。

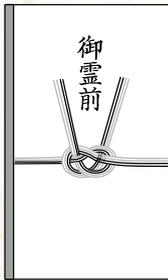
香典の表書きについては次の4ページへ

● 葬儀豆知識 ●

● 香典袋の表書き 通夜・告別式へ

各宗教共通

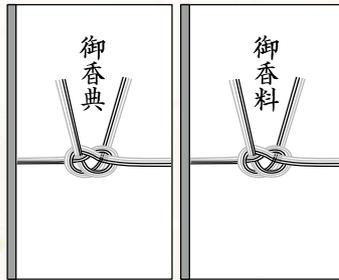
お金・品物



※浄土真宗を除く仏式の通夜・告別式では「御霊前」を使用するのが一般的です。四十九日以降の法事・法要は「御仏前」です。

黒白または双銀などの結びぎり

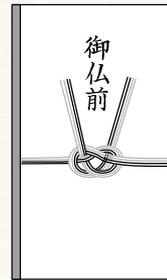
お金



黒白または双銀などの結びぎり

仏式(浄土真宗以外)

仏式(浄土真宗)

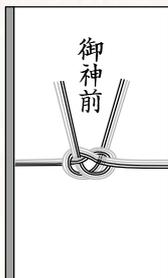


※浄土真宗においては、故人は亡くなってすぐに仏様になるという思想があるためこちらを用います。

黒白または双銀などの結びぎり

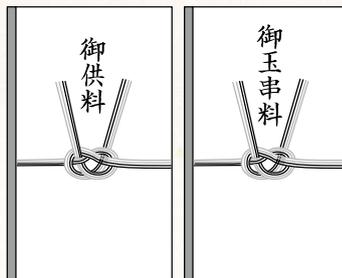
神式

お金・品物



黒白または双銀などの結びぎり

お金



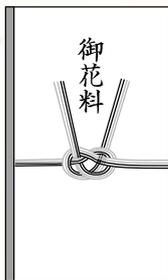
黒白または双銀などの結びぎり

※御玉串料と書くことが多いようです。



キリスト教式

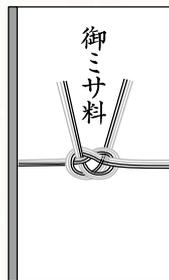
お金



黒白または双銀などの結びぎり

キリスト教式(カトリック)

お金



黒白または双銀などの結びぎり

● 香典袋のたたみ方

香典袋を折る場合には、不祝儀袋ですので、左手前に折るのが正式です。

裏面は、上側が下の折られた紙の上に重なるようにします。

香典に用いるお金は、あらかじめ準備してあったことを嫌い、一般的に使用したお札を使いますが、新札を使う場合は、一度折り目を入れて用います。

※上記は一般的な表書きを掲載しています。各宗教、宗派、または地方の慣習によって異なる場合があります。

● 葬儀後の会食

葬儀後の会食の意味

火葬後、または葬儀終了後に設ける会食の席を、「精進落とし」「精進上げ」「忌中祝い」「精進落ち」「お斎(とき)」「直会(なおらい)」「仕上げ」などと地方によって様々な呼び方をします。

元来、魚や肉などを食わずに精進した中陰の期間に区切りを付け、日常生活に戻ることから精進落としと言われ、魚や肉などの「なまぐさも」が出されました。本来は、「精進落とし(上げ、落ち)」は四十九日の法要の後のお斎の席を言いました。

今ではこれに葬列を始める前に死者との食い別れの宴席を設けたこと、葬儀後に手伝ってくれた人に御礼の振舞をしたこと、の2つがこれに合わさりました。また各地から集まった人が長い間は滞在出来ないこともあり、火葬または葬儀・告別式後に行われるようになったものと思われます。

初七日法要を繰り上げて葬儀後に行うことから「初七日法要後のお斎」と呼び、これを簡略化し「初七日」と言うこともあります。

大きく分けて2つの意味

1. 僧侶などの宗教者、受付や帳場等手伝ってくれた方(近隣・会社関係者)への感謝とねぎらいの席
2. 美味しい食事とともに故人の思い出を語り、偲ぶこと

現在の宴席はいくつかの意味が合体したり、変容したものです。現在の意味で捉えれば「感謝の会(席)」「偲ぶ会」という表現になるでしょう。

参考文献:増補三訂『葬儀概論』碑文谷 創 (株)表現文化社

詳しくはお近くのJAにご相談ください。

県内JA葬祭窓口に関しては(株)JAライフクリエイト福島HPをご覧ください。

<http://jalcf.jp/services/kurashi/>

JAライフクリエイト福島

検索

